

彼の貸銀は一週拾貳圓餘りである（英國に於ける成年男女の三分の一位はこれ以上は受け居ない。殊に他の十分の一以上は實に一週拾圓を取れない）のである。だが仕事が規則だつて續いてゐる時、さへも「漸く身體を養ふべし」といふ出來る程度である。故に若し少し贅澤をしたとする。然し其の贅澤といつても、例へて聖靈降臨祭の行列に子供に新しい着物を買つてやつたり。又妻を廟壇若くは音樂會に連れて行つてやつたりする位のものである。これだけするのにも彼は自分の體力を犠牲に供しなければ金の出處はないのである。「曾ぞ人は誰の大慈者か？他に大慈者なし」

とは穿った便説である。

子供等はズンぐま成長して以前より食物や衣服に多額の金が費まる様になる。だから若しも病氣にでも罹つて仕事な休んだり、又失業などたりすれば彼等親子は忍ら

飢餓に罹ざねばならぬ。

幸ひに此の男の弟がこれまで見難義な時に助力をして莫れども、もう今では家を構へたり子供を持つたりしたので送金なんかしてられない。結婚の時に漸く月賦で

貰つた家財道具はしきもの頃では古くなつた。谷が結婚した時に贈りた時に留め置かれて御祝ひに送つて免れた時計や襯衣物や茶器其の他の小道具は、昨年の冬、彼が瘧血病に罹つて二三週間休業した時に、みんな質に入れて仕舞つた。然しこれはもう到底受け出すことが出来ないであらう。

彼は煙草とビールなどを少々飲む。又時折には自分よりも困つてゐる友達に助助位貸すことがある。然しこれ位のことを以て後悔する程の大盤満だとはどうしても考へることが出来ない。

又彼は多分衛生講話會に出席して光線や空氣の供給に就いて學ぶ。そして出来るなり今の家より少し家賃は高くて、小さい庭のある家を借り度いと思つたが知れない、そして野菜でも作つたりすれば子供も善良な人間になるだらうと思つたがも知れない。然し實際は自分が工場通に使用する古手の自轉車一臺ずつを買ふことが出来ないではない。あの四ツ辻の店には昨冬の病氣以來まだ借金が少々残つて居る。

彼は體力を維持するためには相當の滋養物を攝取せねばならぬといふことも知つて